

令和5年度 小樽市立幸小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

全国学力・学習状況調査では、平均正答率が国語科、算数科ともに全国平均を下回った。記述式解答における「書く力」や、算数科の文章題、読解力や記述力において課題が見られた。

また、標準学力調査では、3年生の算数科は全国平均に達したが、3年生の国語科、5年生の両教科で平均を下回った。特に活用問題で課題が見られた。一方、3年生の算数科で基礎問題で全国平均を超えたことは、習熟度別少人数指導の成果として考えられる。

日常の授業の中で意図的に「書く」活動を設定し、一問一答に偏ることなく、思考・判断を重視した授業改善を進めるとともに、読書習慣の確立による読解力を身に付けることで、記述式や算数科の文章題に対する抵抗感をなくしていきたい。

生活面では、依然としてゲームやスマホ等の使用時間に課題があり、就寝時間が短くなる傾向の児童が見られる。また、「毎日目標時間以上の家庭学習をしている」と回答した児童は67%であり、定着は十分ではない。望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭に啓発を続けていく必要がある。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年～6年 (全学年)	・学年配当漢字の80%以上を書くことができる。

<算数科>

学年	定着目標
1年～6年 (全学年)	・学年の学習内容に応じた四則計算ができる。 (80%)

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年～6年 (全学年)	・70%以上の児童が、毎日目標時間以上の家庭学習をする。 ※目標時間=10分×学年+10分 ・70%以上の児童が、毎日読書をする。

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①繰り返しの漢字・計算練習による確実な定着
- ②朝学習・放課後学習を活用した基礎学力の定着と学び直し
- ③学校全体で取り組む学習規律の徹底

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①思いや考えを伝え合う交流場面の充実
- ②主体性を促す適切な課題設定・指導計画
- ③習熟度別少人数指導の効果的な活用
- ④学びを定着させるための振り返りの時間の確保

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①全校で統一した家庭学習(宿題)の提示
- ②家庭学習における保護者の関わり方の共有
- ③生活リズムチェックシートを活用した生活習慣の振り返り
- ④児童の生活習慣の確立や「おたるスマート7」の徹底を学校便りや保護者会で啓発する。

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 5年	
4月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ○R 5全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自校採点 ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）
5月	・R 5全国学力・学習状況調査～自校採点後の分析
6月	・生活リズムチェックシートの活用
7月	○標準学力調査結果分析 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・児童アンケート・保護者アンケートの実施 ・教職員自己評価 ・夏休み学習会
8月	○R 5全国学力・学習状況調査結果分析 ・生活リズムチェックシートの活用
9月	○保護者への調査結果の説明
10月	○学力向上改善プランの評価・改善
11月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施
12月	・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・児童アンケート・保護者アンケートの実施 ・教職員自己評価 ・冬休み学習会
R 6年	
1月	・生活リズムチェックシートの活用
2月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施
3月	○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①学期末漢字テスト、四則計算テストの実施・採点
- ②児童・保護者アンケート、教職員自己評価の実施

(2) 確かな学力を育む授業改善の取組

- ①校内研修を軸とした研究授業
- ②公開研究会の開催
- ③管理職の日常的な授業観察

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣を育む取組

- ①児童・保護者アンケートの実施
- ②生活リズムチェックシートの活用